

## 新会員卓話 平澤 利秀 会員

今年4月から入会させて頂き今日に至っていますが、正直何も解らぬまま50周年記念の行事があったり、受付に座っていても名前と顔が一致しない為、名簿を見ながらの作業が続いております。最近になっておぼろげながら一致するようになり、一寸安心した日々を過ごしているところです。

さて、新会員卓話という事で、自分の経歴と会社について話をさせていただきます。

私は昭和44年釧路で生まれ、中学校まで釧路で育ち、高校は苫小牧東高校、大学は明治大学、就職は雪印乳業(株)と、青春時代のほとんどをアイスホッケー一筋で過ごしてきました。当時の夢は家業を継ぐことよりも、オリンピック選手になる事を目標に生活していたように思います。そんな時だったでしょうか、15年も前の話になりますが、市内で会社を営んでいた父が病気になり、医者から余命半年と宣告され、父に「もうアイスホッケーは辞めて帰って来い。」と言われたのがキッカケで、釧路に帰って来る事になりました。

今になって考えると、1998年日本で開催された長野オリンピックのときは、年齢的にもピークの時であり、代表に選ばれた選手たちのほとんどは同年代から下の選手であり、あのまま続けていけば「オリンピック選手になっていた可能性もあったのかなあ」と、勝手に思っている次第です。釧路アイスホッケー連盟会長である足立功一先生もいらっしゃるので、あまり大きい事はいえませんが・・(笑)

今になって言えるのは、夢を途中で諦めた事に対して、若干後悔している部分もあり、実家へ帰ってくるのが少し早かったなと考えた時もありました。しかし、学生時代からホッケー一筋でやってきた私にとって、待っていたのは厳しい現実でした。泣きながら仕事を覚えたのを今でも覚えております。そのうっ憤を趣味であるゴルフにぶつけているのですが、やればやるほどゴルフの高い壁にぶち当たり、ストレスの溜まるラウンドが続いているのも事実です。(笑)

さて、会社の話になりますが、私は今、市内鳥取大通の西港石油(株)というガソリンスタンドを営んでおります。帰ってきてもう15年になりますが、毎日が勉強の連続です。その間に特石法が廃止になったり、セルフスタンドが解禁になったりと、業界を取り巻く環境が著しく変化して来ました。去年の話ですが、暫定税率の廃止、1ヶ月後に復活するなど国の政策に振り回され、タンクに残った在庫分に対して何の保障もないまま原価以下で販売を余儀なくされたりと、振り返ってみると商売の難しさを実感している毎日です。この度の選挙で民主党政権が誕生し、来春また暫定税率が廃止になるでしょうから、同じ間違いを繰り返さないよう、政府に対しても期待したいと思っております。

つい先日の話になりますが、私のスタンドの目の前に大きなセルフスタンドが新規オープンしました。今スタンド業界は大きく分けてセルフスタンドとフルスタンドの二つの形態がありますが、自分の目指す理想のスタンドは『価格もセルフと一緒に』『サービスも充実している』『お客様に安心して選んでもらえる』こんなスタンドを目指しています。スタンド業界全般を見ても、決して景気のよい業種ではありませんが、父の代から40年近く運営してきた実績と『地域のお客様に愛される店』を目指して、今後とも精進して参りたいと思っております。 皆様の多大なる暖かいご注文をお待ちして降ります。(笑)

最後になりますが、40歳と言う人生の節目に入会させて頂いた釧路北ロータリークラブの皆様方に、これからもご指導を頂きながら、今年度の会長方針である『グローバルに考え、ローカルに実践しよう』のもと、今後の活動に活かして行きたいと思っております。

本日はどうもありがとうございました。

## 新入会員卓話 小林 秀昭 会員

本日の卓話につきまして、日本生命の将来ビジョンとして「お客様サービスの更なる向上を目指す新統合計画について」という資料をお配りしてありますが、あまり堅い話をするつもりは全くありません。

私、去る9月26日(土)に足寄町に行きまして、ボランティアで植樹活動をしてきました。裸の山に6,000本のミズナラとトドマツを植えて来ましたが、日本生命は紙と人の会社と言われるくらい年間、大変な量の紙を消費しています。その様な事からニッセイは日本全国で植樹と育樹を行っていますが、この活動は日本生命の社員による寄付で賄って降ります。私も毎年1,000円ほど寄付しており、又植樹や育樹などの草刈や苗植えもボランティアとして参加しております。そんなニッセイの森も北海道に11カ所、今回足寄の森で12カ所となりました。ちなみに日本全国では177カ所あります。

さて、話は変わりますが過日、鳩山首相が国連のスピーチでCO2の削減について、世界各国から称賛を頂いておりましたが、それに関する話を致します。

この度日本生命の新統合計画が発表され、その中で本社のペーパーレス化について触れていたことを話します。日本生命は「ずっともっとサービス」として平成24年1月から新しいサービスを開始いたします。このサービスはお客様の利便性の向上や環境への配慮といった観点から、新契約時の事務手続き始め契約内容の変更や給付金の請求と言った各種手続きにおいても、保険証券の提出や印鑑の押印を廃止し、ペーパーレス化を推進する取り組みを行ってまいります。この取り組みにより、ニッセイは年間1.9億枚(約760t)の紙削減効果を見込んでいるとっております。確かに環境面や利便性は素晴らしいものがありますが、私達現場を管理する者としてはお客様の年齢層は幅広く、IDやパスワードといった印鑑や書類のない世界を想像すると不安になる部分もあります。とは言いながら世の中の流れはどんどんペーパーレスの時代に入っております。

しかしながら、このようなサービスが実現したならば地球にも環境にも優しい会社になれるかなと期待もしています。いずれにしましても世の中の変化に対応する柔軟な気持ちで平成24年1月を迎えたいと考えております。ご静聴ありがとうございました。

## 新会員卓話 沼沢 東三 会員

### 1. 分社化後の郵便局等

- (1) 平成19年10月の民営・分社化により、「日本郵政(持株会社)」を中心に、「郵便事業会社」、「郵便局会社」、「ゆうちょ銀行」、「かんぽ生命保険」の5社に分割。
  - ・ 郵便事業会社の店舗 1100支店、郵便局会社の店舗 24000局
  - ・ ゆうちょ銀行の店舗 234店(直営)、かんぽ生命保険の店舗 80店(直営)
- (2) 釧路支庁管内では、郵便事業会社が2支店、郵便局会社が68郵便局、ゆうちょ銀行が1店を配置。
- (3) 分社化による郵便局組織

従来	現在
釧路中央郵便局	・ 釧路中央郵便局・・・郵便及びかんぽ生命保険の委託販売 ・ 郵便事業会社釧路支店・・・郵便の配達、集荷等 ・ ゆうちょ銀行釧路支店・・・貯金・為替等の販売
釧路東郵便局	・ 釧路東郵便局・・・郵便、貯金、為替及びかんぽ生命保険の委託販売 ・ 郵便事業会社釧路支店釧路東集配センター・・・郵便、小荷物の配達、集荷
釧路駅前郵便局	・ 釧路駅前郵便局・・・郵便、貯金、為替及びかんぽ生命保険の委託販売

## 2. 日通との宅配便事業統合

(1) 収益性の改善と競争力の確保を図るため、日本通運の宅配便（ペリカン便）と郵便事業会社の小荷物部門（ゆうパック）を統合する予定。

「参考」宅配便のシェア(総個数 約33億個)

ヤマト運輸38.0%、佐川急便33.4%、

ペリカン便10.7%、ゆうパック8.3%、その他9.6%

(2) このため、両社で新たな会社を設立。新会社はJPエクスプレス株式会社。

出資比率は、郵便66%、日通34%。

(3) 日本通運の宅配便事業は、本年4月からJPエクスプレス株式会社に承継。

(4) 郵便事業会社の小荷物部門は、本年10月にJPエクスプレス株式会社に承継予定。しかし、総務省の認可が降りず、延期。

## 3. 今後の経営形態の見直し

政府の臨時国会に次の法案を提出予定。

(1) 郵政民営化見直し基本法案の提出

日本郵政（持株会社）に、郵便事業会社及び郵便局会社を統合。

(2) 3社の株式売却凍結法案の提出

平成22年度までに3社（日本郵政、ゆうちょ銀行、かんぽ生命保険）の株式を売却する予定だったのを凍結。

## S A A北川 健二 会員

魏志倭人伝の記載から、卑弥呼が日本統一するまで群雄割拠で100カ国以上の国があった。その後、大和朝廷が出来て、遣隋使、遣唐使を送り、中国に朝貢して庇護を求めます。その代り中国の文化、技術を頂いて、模倣し大きくなっていった。

中国やインドと肩を並べたとの意識を持ち、朝貢や遣唐使をやめました。

室町時代に中国百済を応援する目的で出兵したり、豊臣秀吉の時は朝鮮半島に出兵するなど領土欲を持ったのだと思う。

江戸時代に日本は鎖国をし、明治時代に目を外へ向けると、世界の国々はすごく発展している事に気が付きます。イギリスの産業革命を模倣し、ドイツを模倣してある程度レベルが同じになったとして、第二次世界大戦で中国を侵略し、東南アジアを侵略しました。

他国を模倣して肩を並べたと思ったら、領土を求める歴史だったと思います。

大戦後、日本は大国アメリカをターゲットにし、米国を模倣して経済的發展をした、その中から経済侵略という形が出てきた。

歴史は繰り返すと言われますが、今の状態であれば日本は将来また同じ事を繰り返す気がしてなりません。繰り返さない日本になってくれればとっても良いと思いますが、仮に繰り返すとしたら、発展著しい中国をターゲットにするのではないのでしょうか。

陸上競技に例えると、日本はアメリカなどと共にトップグループを走っていると思われていますが、日本人だけが気がついてないのは、きっと一周遅れて走っているような気がします。一周遅れの自覚を持てば、今までのように模倣して大きくなっていくのではなくて、形とか経済という物ではなくて、心から世界の人々と手を取り合って、これからの日本を築いて行ってくれるのではないかと考えております。

今回の政権交代で変革の大きなキッカケとなることを、期待も致しております。